

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

公表:令和 5年 9月 29日

事業所名 あさがおクラブ

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓			ワンフロアで十分な広さがある。必要に応じて、別室を活用して分散して活動が出来るように工夫している。	ワンフロアの為、区切りが無いので必要に応じてパーティションなどを活用する。
	2	職員の配置数は適切である	✓			必要な人員は配置できている。	曜日によって職員数が変わるので、毎日固定した職員確保(加配配置)が出来るように求人募集をしていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			✓	事業所が建物の2階にあり、エレベーターは無く階段を昇り降りするので、階段の昇り降りには職員が見守るようにしている。	階段や室内の段差などで怪我をしないように安全への配慮が必要である。エレベーター等の設置が無い建物(賃貸)なので、車椅子の方の利用が難しい状況である。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		✓		ジョブメンター制度の導入。午後からのパートの職員にも会議に参加出来るように開催時間等の変更を行った。	ジョブメンター制度の活動の充実。午後の職員と時間を掛けて話し合う機会がないので改善が必要である。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		✓		評価アンケートを集約し、定例会で保護者に説明を行っている。また職員間で情報を共有している。	アンケート等でいただいたご意見、懇談や送迎時等、お聞かせいただいたお話などを業務改善につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	✓			自己評価も事業所評価と共に配布、HPへアップしている。	希望があれば、見学者等にも配布、説明を行っていくように努める。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	✓			第3者委員に事業所を見に来てもらい、児童や職員の話聞いてもらっている。	事業所見学後の報告を確認し、職員間で情報共有するようにしていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	✓			毎月1回、職員研修を実施している。また、外部研修や資格取得を進めている。	法人の理念継承を進めていくことが大切であり、そのための研修を毎年行っていく計画を立てている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	✓			活動の様子、ご家族の声などから職員間で情報共有、アセスメントを行い計画作成を行っている。	アセスメント、分析の在り方について、様々な捉え方、考え方があろうと思うが、研修等を通じて研鑽に努める。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		✓		支援等の記録をベースに職員間で話し合いを行っている。	行動の状況を把握するために、職員間で意見交換し、客観的に状況把握をようしているが、特定ツールは利用していない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか		✓		子どもに合わせて職員間で相談して決めている。長期休み期間は、計画を立て日頃出来ない活動を実施するようにしている。	保護者の声十分に反映されていないのが、課題である。日々のコミュニケーションの中で聞き出し反映していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		✓		週間単位、休暇中の活動を確保、より多くの経験が出来るように設定している。また本人の状況、調子に合わせ柔軟に対応している。	課題改善だけでなく、本人の思いを聞き(考え)一人一人に合った内容を実施し、また自信に繋がられるストレングス部分の強化につなげていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		✓		週間単位、休暇中の活動を確保、より多くの経験が出来るように設定している。	課題改善だけでなく、自信を持てるかという部分に焦点をあて、ストレングス部分の強化にもつなげていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか		✓		ケース会議を行い、職員間で相談しながら計画を作成している。	一人ひとりの目指すべき目標、課題について意見交換し、計画を作成するよう心掛けるようにしているが、ご本人のニーズの聞き取り、反映がまだ不十分と感じる。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	✓			職員間で打ち合わせを行い、確認している。また午後からの職員にも情報を伝えるようにしている。	朝は打ち合わせの時間が取れているが、午後からの職員との打ち合わせが出来ていないことがあるので、確認漏れが無いようにシステムを確立していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		✓		支援終了後や送迎終了時に、その都度振り返りを行い情報の共有を行うようにしている。	緊急対応や時間を掛けて検討するケースもあるので、その日だけでは時間が足りない場合があり後日に継続した検討を行うようにする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		✓		日々の活動、支援内容については支援記録を作成している。また、エピソード記述を取り入れ本児の思いを深く考える機会をもっている。	支援記録やエピソード記述を活用し、本児の思いをより深く考え、支援の改善に繋げていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	✓			半年に1度、懇談、モニタリングを行い、必要に応じて計画の変更を行っている。	本児の成長に合わせた変更(見直し)等を考え、今後も引き続き検証していく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っているか		✓		事業所の活動内容とニーズに沿った形で実践を行うようにしている。	ガイドライン、領域を意識した活動内容を今後も検討していく。	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか		✓		サービス管理責任者が参加し必要に応じて現場職員も参加している。	サービス管理責任者だけが参加するのではなく、現場職員も必ず参加し複数でより多くの情報や意見交換が出来るようにしていく。	
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか		✓		学校のホームページから学校便りを検索し予定等を把握するようにしている。送迎時、担当の先生と話を確認している。	ご家族を介しての情報共有が多く学校と直接情報共有する機会は少なく、申し送り事項も無いことも多い。学校側との情報を共有する機会が必要である。	
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			✓	現在、医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもは利用していない。	受け入れ可能な体制が取れるのかどうか。法人勤務(他部署)の看護師、産業医とも相談していく。	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	✓	サービス調整会議等を通じて情報共有を行っている。	必要に応じて、関係機関と相談し、連携の方法について模索していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	✓	必要に応じて情報提供を行っている。	移行先から情報を求められた場合は伝えているが、事業所から積極的に情報を提供することは少ない。移行前に、担当者会議等が開催される良いと思われる。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	✓	事業所連絡会の会議等で情報共有や意見交換を行っている。また、内外部研修を行っている。	内外部研修について、職員の意見を取り入れ、研修内容を充実させていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	✓	コロナのことを考え、交流や活動の機会を設定していない。	コロナも影響してこの数年、交流的なことは出来ていない。まずは職員間で企画を検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	✓	協議会へは同法人内の職員が参加している為、参加した職員から情報提供を受けている。	地域の子ども・子育て会議等への参加を検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	✓	送迎時や実施記録を通じて情報共有を行い、また必要に応じて電話での連絡を行っている。	送迎時に保護者とのお会い出来ないケースもあるので、どのご家族ともしっかり情報共有が出来るように職員の方から積極的にアプローチを行っている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	✓	ご家族同士がお話を出来る場として交流の場を開催、実施した。	交流の場は、まだ始まったばかりで2回しか出来ておらず、今後は交流の場の認知度を上げ、参加者を増やしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	✓	契約時に説明を行っている。	契約時だけでなく、いつでも質問に答えられるように、分からない点がないか発信できていないか検討する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	✓	送迎時や実施記録を通じて、保護者からの相談を受けることもあり、適時対応している。	定期的な相談の場として交流の場を開催したが、数回しか開催出来ておらず、定期的な相談の場となっていない。職員の方から積極的にコミュニケーションを取っていき悩みを聞き出していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	✓	今年度、秋に保護者参加の野外交流会を実施予定。また定例会は定期開催。	野外活動や交流の場などを保護者参加の機会を増やし、保護者同士が出会える機会を増やしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	✓	苦情対応者(管理者)を設置していることを周知(ポスター等)を行っている。また迅速に対応するよう心掛けている。	1つ1つのご意見に対して、真摯に向き合っていく。また苦情対応責任者だけでなく、意見を拾えるように職員一人ひとりが意識していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	✓	クラブだよりの紙面を改善して年3回発行している。また法人からは花の会ニュースが発行されている。	年3回しか発行しておらず発行していない月の方が多く、情報提供と言う部分では不十分である。定期的な情報発信方法(ライン等)を検討していく。
	35	個人情報に十分注意しているか	✓	パソコン内のデータは共有クラウドを活用して、情報漏洩が起らないようにしている。	子ども達のいる側での職員間の会話も十分に気を付け、職員一人一人の意識を高めていく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	✓	口頭だけでなく、紙に書いたり、イラストを提示するなど視覚的にも伝わるようにしている。	子どもや保護者の気持ちになって考え、丁寧に分かりやすくしていく必要がある。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	✓	コロナ禍という事もあり、地域との交流を持てなかった。	コロナ以前のように、地域の行事に参加する等、折を見て再開させていく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	✓	職員にはマニュアルを配布して、必要に応じて研修もを行っている。	防犯マニュアルの作成が不十分であり、改善が必要である。また、保護者への周知が不十分でいつでも確認できるような形式の検討していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	✓	避難、消火、救急救命訓練は定期的に行っている。	子どもも参加しての訓練を行っているが、回数が少なく、利用している子ども全員への意識づけが足りない。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	✓	毎年、事業所・法人単位、虐待防止の研修を行っている。	虐待防止は知識だけでなく、日々の関わり方が大切であることを伝え事業所全体での意識や雰囲気作りを大切にいく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	✓	支援計画書に記載している。また身体拘束マニュアルがある。	緊急時、一人の職員で対応するのではなく複数の職員で対応し安全確保を行うと共に発生時には必ず保護者への報告を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	✓	ご家族の方からアレルギー提示に応じ、おやつや食事の際の配慮を行っている。	除去対応を行いながら、他の人と遜色のない食事やおやつを提供する。命に係わる事故となるので複数での確認を怠らないようにする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	✓	ヒヤリハット報告書を作成、会議で情報共有を行っている。	ひやりはつとの作成数が少ないのが課題であり、ひやりはつとの重要性を職員一人ひとりに説明して意識向上を図っていく。

公表 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

公表:令和 5年 9月 29日

事業所名 あさがおクラブ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓			ワンフロアで十分な広さがある。必要に応じて、別室を活用して分散して活動が出来るように工夫している。	ワンフロアの為、区切りが無いので必要に応じてパーティションなどを活用する。
	2	職員の配置数は適切である	✓			必要な人員は配置できている。	曜日によって職員数が変わるので、毎日固定した職員確保(加配配置)が出来るように求人募集をしていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている			✓	事業所が建物の2階にあり、エレベーターも無く室内も2段ほどの階段がありバリアフリーではないので、階段の上り下りなど職員が見守るようにしている。	室内はワンフロアの為、分かりやすい構造になっているが、駐車場が1階であり事業所の入り口まで移動するため、安全確保が必要である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	✓			毎日、清掃・消毒を行い快適に過ごせるような環境設定を心掛けている。また子ども達の状況に合わせて別室を活用している。	ワンフロアで十分な広さはあるが、反面、音が響きやすくて視覚的に遮るものも無い為、大きな音が苦手な子どもにとっては工夫が必要である。建物の建築年数及び構造上トイレの個室スペースが狭くまた古いので改善が必要である。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		✓		ジョブメンター制度の導入。午後からのパートの職員にも会議に参加出来るように開催時間等の変更を行った。	ジョブメンター制度の活動の充実。午後の職員と時間を掛けて話し合う機会がないので改善が必要である。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		✓		評価アンケートを集約し、定例会で保護者に説明を行っている。また職員間で情報を共有している。	アンケート等でいただいたご意見、懇談や送迎時等、お聞かせいただいたお話を業務改善につなげていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	✓			自己評価も事業所評価と共に配布、HPへアップしている。	希望があれば、見学者等にも配布、説明を行っていくように努める。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	✓			第三者委員に事業所を見に来てもらい、児童や職員の話聞いてもらっている。	事業所見学後の報告を確認し、職員間で情報共有するようにしていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	✓			毎月1回、職員研修を実施している。また、外部研修や資格取得を進めている。	法人の理念継承を進めていくことが大切であり、そのための研修を毎年行っていく計画を立てている。
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	✓			活動の様子、ご家族の声などから職員間で情報共有、アセスメントを行い計画作成を行っている。	アセスメント、分析の在り方について、様々な捉え方、考え方があと思うが、研修等を通じて研鑽に努める。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		✓		支援等の記録をベースに職員間で話し合いを行っている。	行動の状況を把握するために、職員間で意見交換し、客観的に状況把握をようしているが、特定ツールは利用していない。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		✓		活動の様子、ご家族の声などから職員間で情報共有、アセスメントを行い計画作成を行うようにしているが、必要な項目について、適切に選択できているか検討する必要がある。	必要な項目設定については、一人ひとり異なる。アセスメント、分析の在り方について、様々な捉え方、考え方があと思うが、研修等を通じて研鑽に努める。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている		✓		子どもの声(ニーズ)を取り入れ柔軟に活動している。	子ども達の状況に合わせて柔軟に対応しているが計画性、積み重ねといった所が弱い部分があるので、改善が必要である。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている		✓		子どもに合わせて職員間で相談して決めている。長期休み期間は、計画を立て日頃出来ない活動を実施するようにしている。	保護者の声が十分に反映されていないのが、課題である。日々のコミュニケーションの中で聞き出し反映していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		✓		週間単位、休暇中の活動を確認、より多くの経験が出来るように設定している。また本人の状況、調子に合わせ柔軟に対応している。	課題改善だけでなく、本人の思いを聞き(考え)一人一人に合った内容を実施し、また自信に繋げられるストロングス部分の強化につなげていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		✓		ケース会議を行い、職員間で相談しながら計画を作成している。	一人ひとりの目指すべき目標、課題について意見交換し、計画を作成するよう心掛けるようにしているが、ご本人のニーズの聞き取り、反映がまだ不十分と感じる。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		✓		職員間で打ち合わせを行い、確認している。また午後からの職員にも情報を伝えるようにしている。	朝は打ち合わせの時間が取れているが、午後からの職員との打ち合わせが出来ていないことがあるので、確認漏れが無いようにシステムを確立していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	✓			支援終了後や送迎終了時に、その都度振り返りを行い情報の共有を行うようにしている。	緊急対応や時間を掛けて検討するケースもあるので、その日だけでは時間が足りない場合があり後日に継続した検討を行うようにする。

関係機関や保護者との連携	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	✓		日々の活動、支援内容については支援記録を作成している。また、エピソード記述を取り入れ本児の思いを深く考える機会をもっている。	支援記録やエピソード記述を活用し、本児の思いをより深く考え、支援の改善に繋げていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	✓		半年に1度、懇談、モニタリングを行い、必要に応じて計画の変更を行っている。	本児の成長に合わせた変更(見直し)等を考え、今後も引き続き検証していく。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	✓		児童発達支援管理者が参加し必要に応じて現場職員も参加している。	児童発達支援管理者だけが参加するのではなく、現場職員も必ず参加するようにしていく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	✓		ニーズに応じて関係機関と連携し支援を行っている。	必要に応じて情報共有等を行っているが、連携が密接でないのが現状である。こちらから積極的にアプローチをしていく関係性を深めていく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	✓		現在、医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもは利用していない。	建物のバリアフリー問題や看護師配置等の課題が多く、まずは受入れ可能な体制が取れるかの検討が必要である。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	✓		現在、医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもは利用していない。	建物のバリアフリー問題や看護師配置等の課題が多く、まずは受入れ可能な体制が取れるかの検討が必要である。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	✓		サービス調整会議等を通じて情報共有を行っている。	サービス調整会議もしくは保護者を介しての情報共有に留まっていて、直接に密にやりとりする場面がないのが実態である。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	✓		サービス調整会議等を通じて情報共有を行っている。	サービス調整会議もしくは保護者を介しての情報共有に留まっていて、直接に密にやりとりする場面がないのが実態である。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	✓		事業所連絡会の会議等で情報共有や意見交換を行っている。また、内外部研修を行っている。	内外部研修について、職員の意見を取り入れ、研修内容を充実させていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	✓		コロナのことを考え、交流や活動の機会を設定していない。	コロナも影響してこの数年、交流的なことは出来ていない。まずは職員間で企画を検討していく。
保護者への説明責任等	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	✓		協議会へは同法人内の職員が参加している為、参加した職員から情報提供を受けている。	地域の子ども・子育て会議等への参加を検討していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	✓		送迎時や実施記録を通じて情報共有を行い、また必要に応じて電話での連絡を行っている。	送迎時に保護者とのお会い出来ないケースもあるので、どのご家族ともしっかり情報共有が出来るように職員の方から積極的にアプローチを行っていく
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	✓		ご家族同士がお話を出来る場として交流の場を開催、実施した。	交流の場は、まだ始まったばかりで2回しか出来ておらず、今後は交流の場の認知度を上げ、参加者を増やしていく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	✓		契約時に説明を行っている。	契約時だけでなく、いつでも質問に答えられるように、分からない点がないか発信できていないか検討する。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	✓		懇談、個別支援計画の配布等を通じて同意を得ている。	支援内容の丁寧な説明が十分ではない。時間をかけて説明できる場の設定が必要である。同意を得る過程の中で、様々な意見に対して、真摯に向き合っていく。意見に気が付けるよう職員一人ひとりが意識していく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	✓		送迎時や実施記録を通じて、保護者からの相談を受けることもあり、適時対応している。	定期的な相談の場として交流の場を開催したが、数回しか開催出来ておらず、定期的な相談の場となっていない。職員の方から積極的にコミュニケーションを取っていき悩みを聞き出していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	✓		今年度、秋に保護者参加の野外交流会を実施予定。また定例会は定期開催。	野外活動や交流の場などを保護者参加の機会を増やし、保護者同士が出会える機会を増やしていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	✓		懇談や送迎時に限らず、相談があれば電話、メール、直接等、柔軟に対応するようにしている。	事業所が、子どもや保護者にとって、話やすい、相談しやすいところであるように、職員一人一人が自己研鑽に努める。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	✓		クラブだよりの紙面を改善して年3回発行している。また法人からは花の会ニュースが発行されている。	年3回しか発行しておらず発行していない月の方が多く、情報提供と言う部分では不十分である。定期的な情報発信方法(ライン等)を検討していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	✓		パソコン内のデータは共有クラウドを活用して、情報漏洩が起こらないようにしている。	子ども達のいる側での職員間の会話も十分に気を付け、職員一人一人の意識を高めていく。
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	✓		口頭だけでなく、紙に書いたり、イラストを提示するなど視覚的にも伝わるようにしている。	子どもや保護者の気持ちになって考え、丁寧に分かりやすくしていく必要がある。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	✓		コロナ禍という事もあり、地域との交流を持ってなかった。	コロナ以前のように、地域の行事に参加する等、折を見て再開させていく。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	✓		職員にはマニュアルを配布して、必要に応じて研修も行っている。	防犯マニュアルの作成が不十分であり、改善が必要である。また、保護者への周知が不十分でいつでも確認できるような形式の検討していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	✓		避難、消火、救急救命訓練は定期的に行っている。	子どもも参加しての訓練を行っているが、回数が少なく、利用している子ども全員への意識づけが足りていない。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	✓		利用前の面談時に、身体的な状況、服薬について確認している。	服薬の変更等、懇談時等に確認するようにしているが、漏れがないように確認していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	✓		ご家族の方からアレルギー提示に応じ、おやつや食事の際の配慮を行っている。	除去対応を行いながら、他の人と遜色のない食事やおやつを提供する。命に係わる事故となるので複数での確認を怠らないようにする。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	✓		ヒヤリハット報告書を作成、会議で情報共有を行っている。	ひやりはつとの作成数が少ないのが課題であり、ひやりはつとの重要性を職員一人ひとりへ説明して意識向上を図っていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	✓		毎年、事業所・法人単位、虐待防止の研修を行っている。	虐待防止は知識だけでなく、日々の関わり方が大切であることを伝え事業所全体での意識や雰囲気作りを大切にしていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	✓		支援計画書に記載している。また身体拘束マニュアルがある。	緊急時、一人の職員で対応するのではなく複数の職員で対応し安全確保を行うと共に発生時には必ず保護者への報告を行う。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	14	2			
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	13	3			
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	7	5		4	
適切 な支 援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	16				
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	14	2			
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	4	2	9	・コロナの中なので難しいと理解しています。 ・特になくとも良いかと。
保護 者へ の説 明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	15	1			
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	13	2		1	・連絡帳か口頭(毎回)にて伝えていただき様子が分かりありがたいです。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14	2			
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	3	1	5	
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10			6	
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	16				・ラインを使えるようにして欲しい。
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	16				
非常 時等 の対 応	14	個人情報に十分注意しているか	11	3		2	
	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	12	1		3	
満足 度	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	1		6	
	17	子どもは通所を楽しみにしているか	12	4			・毎回楽しみにしています。
	18	事業所の支援に満足しているか	16				・自らリクエストを用意し「行く」と伝えてきます。 ・クッキングとても良いと思います。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

(保護者等の皆様へ)

○ この放課後等デイサービス支援評価表は、放課後等デイサービスを利用しているお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」、「わからない」のいずれかに「○」を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

保護者等向け 児童発達支援評価表

社会福祉法人 花の会
あさがおクラブ
高槻市南平台4丁目15-22
TEL:072-655-2103
FAX:072-655-5746

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	3			1	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	3			1	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	2	1		1	・2階なのでバリアフリーではないが、開所時、階段の安全確保でメンテナンスはバッチリだと思います。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	4				
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画iiが作成されているか	4				
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4				
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4				
	8 活動プログラムiiiが固定化しないよう工夫されているか	2			2	
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1			3	・夏休みに「あじさいクラブ」との交流をお伺いしています。
適切な 支援の 提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	4				
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	4				
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われているか	2	2			・ペアレントトレーニングは別としていつも親身です。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	3	1			
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	2	2			
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか		3		1	・コロナ禍になるまではイベント多めでした。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	3	1			
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	3			1	
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	3	1			
19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	1	1		2		
非常時 等の 対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	1			3	
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか				4	
満足 度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	3	1			
	23 事業所の支援に満足しているか	4				

i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

ii 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

iii 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせる実施されることが想定されています。

iv 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

(保護者等の皆様へ)

○ この児童発達支援評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所を利用しているお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」、「わからない」のいずれかに「○」を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。